

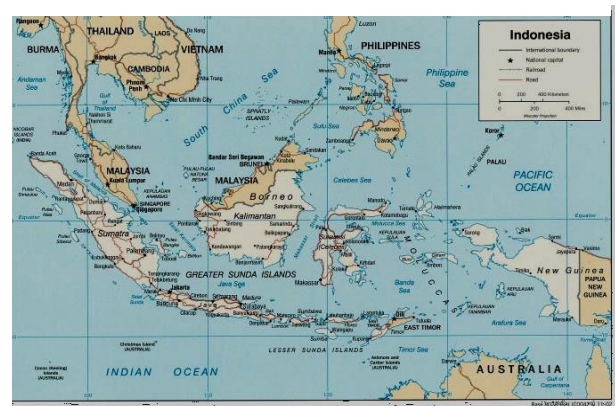
ホームページ <http://www.cpi-mate.gr.jp>

URL English <http://cpimate.com>

インドネシアは「海の国」と呼ばれ、約 18,000 余りの島々と周囲の海を含んだ共和国です。主な島は、ジャワ島、スマトラ島、カリマンタン島（西部の一部はマレーシア領です）、スラウェシ島、イリヤンジャヤ島（東部はパルアニューギニア領です）、リゾートで知られるバリ島もそのひとつです（ジャワ島の東側にあります）。

C.P.I.は、1989 年に奨学金支援を始め、現地の教育組織とともに 1993 年に PPKIU という現地組織の設立を行って以来、主にジャワ島で活動してきました。2012 年から、漁村コミュニティの教育開発のため、スラウェシ島でも大学・地方政府との協働に入っています。2007 年に国際 NGO として現地外務省への登録を行いますので、貧困な地域の子どもの生活向上を図るために、教育支援に加えて、教育開発（自立のためのもの）を進めております。

教育支援におきましては、現地ボランティアリーダーの皆さんは、ご夫婦で活動を支えて下さっている形がほとんどです。奥様方の力は、大きいものがあります。下の写真をご覧ください。



ジャカルタ：スグン夫妻



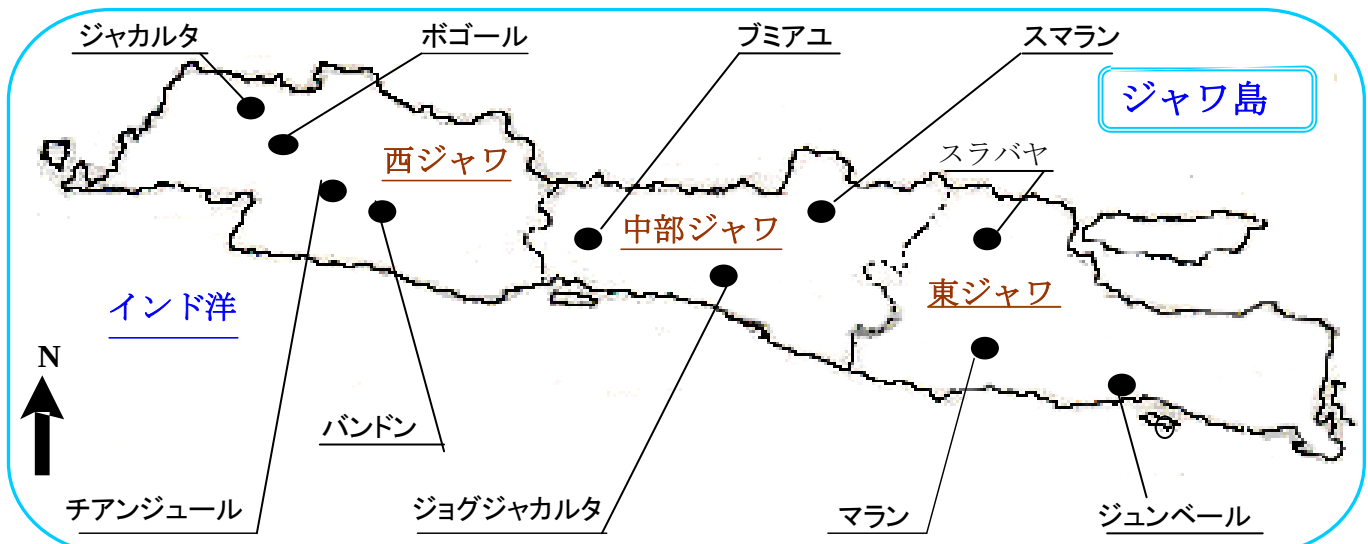
ボGORル：アンドリアニさん



ブミアユ：マジッド夫妻



スマラン：ダルヨノさん



チアンジュール：アナム夫妻



ジャグジャ：スティクノ夫妻



マラン：アダム夫妻



ジュンベル：サキブ夫妻

地域リーダー会議で6時間、語り合いました

今年の、教育支援に携わる地域リーダー会議は、11月29日に自然に囲まれて長時間、行いました。

課題 1. 学費も諸物価も異常な値上がり

学費、交通費、基本食材が値上がりしている。奨学金の金額を据え置くことは、落胆を招きかねないとの、全員からの意見でした。交通関係では、電車代は何と二倍になり、軽油・ガソリンも30%ほど値上がりしており、食材も20~30%の上昇となっているとのこと。これらが教育費を圧迫しています。

協議の結果2015年度以降、現状の教育支援金をベースに20%にあたる約80万円を、インドネシア内の定期預金運用財産収入から追加支援する考えを、C.P.I.理事会に諮ることとなりました。

課題 2. C.P.I.事務所の使用について

今年度から、事務所所在地は、ジャカルタ・ガトツトスプロト通りのSMESCOビル10階に移設しました。このビルは、地方政府、組合組織、中小企業組織、組合&中小企業省と協定するNGOが、事務所契約できます。C.P.I.は、今年度に、同省との協定を結んだのを機会に、様々な利点を考えて、現在の事務所に入りました。合同の電話秘書がおり、事務作業のほかに、8人、20人、40人の各会議室が使えます。ロビーには喫茶コーナーがあります。事務所階に集う各地方政府やNGOの人々との情報交換をし易いことも利点です。教育支援の地域リーダーあるいは教育里子卒業生会の皆さんも、C.P.I.のカントリーマネージャーに電話一本いれることで、この事務所を使用できるようにしています。



11月29日に行われた地域リーダー会議

課題 3. PPKIJ の根本的な運営について

教育支援の現地組織であるPPKIJ本部の、チアンジュール市のPPKIJ施設への移設を、決めました。薬剤師養成高校として6年の実績をもつ学校を擁し、50名の学生が通うコンピュータークラスがあり、さらに実務教科を増やすために旧学舎の増設を図っています。旧学舎は15年前に日本大使館の支援で建設されたこともあり、増設に係る草の根無償の獲得に動いています。スタッフも充実しています。



教育里子ひとり当りの支援を増す方策を協議しました。チアンジュールの施設を活用した教育ビジネス(有料)案と、活動全般に対するチャリティ催事を継続的に仕掛ける案が出ました。ともに、インドネシア側担当者は、PPKIJ次期理事長アナム氏です。

日本の教育里親からの支援金の増額を求めることは、出口目標を考えても逆行ですので、現地の運営および援助金の増額への対処を現地で、という考えです。但し、仕掛け準備には資金がいりますので、準備段階の支援を頂けないかとの要請があり、計画を慎重に検討した上で考えたいと思います。

私たちの奨学制度を守ってください。お願いします

教育里子大学生からの手紙（翻訳）

インドネシアには、ほんとうの意味の義務教育制度はありません。C.P.I.と PPKIJ は、だからこそ、貧困家庭の優秀な子どもたちに手を差し伸べてきました。日本の教育里親の皆さんには、いつも感謝しております。しかし、2003 年度学年から、政府の教育制度が変わり、状況は厳しくなっています。小中高の入学金が必要なことや、中学・高校の卒業試験費用が高いのは相変わらずですが、2014 年になって、公立中学校の授業料は月 100,000 ルピアを超え、公立高等学校の授業料は月 150,000 ルピアを超えています。地方では若干安いですが、それでも以前に比べ2倍以上になっているのです。それに加えて、交通費も上がっています。電車代は、一番ひどくて二倍になりました。アンコク(乗合の小さなバス)が、値段があがらないので助かりま

すが、なくなってしまうかもしれません(交通渋滞のもととされていますから)。

C.P.I.からの奨学金で賄っていた子どもたちへの授業料補助は、今のままでは、貧しい家庭の子どもたちには足りません。また、国立大学生への支援は二年生までは絶対に必要ですが、三年生以降にも継続しますと支援資金が圧迫され、新たな中学生を選考できなくなることがはっきりしています(里親さんが、増えれば解決できますが)。そこで、C.P.I.-PPKIJ は、大学生たちと話し合い、2005 年度学年からこの問題の解決をするために、大学3年生以上は自活することになりました。ですが、良心的なアルバイト斡旋機関がないので、アルバイトを探すのは大変です。奨学制度を守るためにも対策をお願いします。(⇒ P2を参照)

インドネシア学校教育制度									
年齢									
27	大学院 (Doctoral Program)		医学部は別のプログラムになる						
26									
25									
24	大学院 (Master Course)		● 留年は 7 年が限度						
23			● * SM=スメスタ(前期 9-3月、後期 4-8月)						
22	5th Year (前期) SM-9/(後期) SM-10								
21	4th Year (前期) SM-7/(後期) SM-8								
20	3rd Year (前期) SM-5/(後期) SM-6						3rd Year		
19	2nd Year (前期) SM-3/(後期) SM-4		2nd Year				2nd Year		
18	1st Year (前期) SM-1/(後期) SM-2		1st Year				1st Year		
	大学 (Under Graduate)		S1(Sarjana) (学士コース)		D2(Diploma) (短大)		D3(Diploma) (専門学校)		
	《進学選択コース》		↑		↑		↑		
17	高等学校 (Senior High School)						3rd		
16							2nd		
15							1st		
14	中学校 (Junior High School)						3rd		
13							2nd		
12							1st		
11	小学校 (Primary School)						6th		
10							5th		
9							4th		
8							3rd		
7							2nd		
6							1st		
5	幼稚園 (Play Group)						2nd		
4							1st		
C P I 教育支援期間									

大切にしたい。あの頃の思い、懐かしいこと。

ムリティニシイ(29歳)

マランの教育里子でマランステート大学の経済学部で勉強しました。マランは西ジャワに位置し、“花の街”と、寒い気候で知られています。マランから25キロほど西に“サムル”という小さな村があります。ポンチョクスモという山の斜面に面した村が、私の家族の住んでいる所です。ポンチョクスモとはジャワ語でポンチョは5を、クスモは花を意味します。“5つの花”ということです。私は家族と離れて、マランの街に部屋を借りていました。家賃を払うのは大変ですが、大学に通うためには仕方ありませんでした。週末は、家族、とくに姪に会いに帰りました。

家族の笑顔のある生活が一番です

父も母も同じ村の出身なので家族全員ポンチョクスモに住んでいます。我が家は父母と姉と姪とが1つの家に住んでいて、父はりんご農業をしています。彼は8人兄弟の2番目です。母は家事をして家にいます。彼女は7人姉妹の長女です。そして私の姉は彼女の夫が亡くなった2004年以降、村でイスラム教を子ども達に教えています。姉の娘、私の姪はとても可愛いので好きです。父は、我が家の毎日食べるお金を稼ぐ大黒柱です。りんご農家になる前に、父は村の交通ドライバーとして働いていました。それは、前よりよい暮らしができるようにとの考えでした(りんご農業はよりよい収入を得られます)。でも、実は私たちは、昔の質素な生活が懐かしかった。収入の波がなく、一家仲良く、楽しい生活でした。



サムル村
サムル火山



ジャワ島で一番高い山。Mt.Semeru(3676m)は活火山
ポンチョクスモはそのふもとにあります

というのも、2002年から2005年にかけて、りんご農家には最悪の年でしたから。日照りのため木が傷み果実の収穫ができませんでした。2004年の半ばから一年は収穫がなく、一家は貧困に沈みました。家族には、笑顔がなくなったのです。果樹の被害は、サムラ山からの火山灰が原因だと言われていました。サムラ山は、東ジャワで最も噴火の盛んな火山です。

教育里親さんのありがたさは言葉にできません

家族は苦境に陥りました。でも私が勉強を続けられたことは、皆の励みとなりました。C.P.I の教育里親さんからのご支援は、どれほど家族を勇気づけたでしょう。里親さんの山口県の津田さんとの交流は続いて14年になり、送られる暖かい手紙の内容は、私の勉強の友でありましたし、こちらに来て戴いたときのアドバイスは、私の将来を明るくものにしてくれました。私の友だちも、ほかの教育里親さんから奨学金を戴きました。私たちは、里親さんたちに、今も心をこめて感謝の気持ちを贈りたいです。必ず里親さんを大切にして、一生忘れることはないことを申し上げます。ですから、教育里親活動を守って戴けますよう、お願いします。

2015年の、卒業生集会を楽しみにしています

スリ・ハンダヤニ(26歳)

私は、ガジャマダ大学で、社会政治学部社会学を学び、いま社会活動家です。
中学 3 年から大学 2 年まで、C.P.I.-PPKIJ の奨学金を戴いていました。
私にとってこの奨学金は経済的だけでなく、いまでも精神的にも大きな後押しになっています。私はこの力を後輩たちや社会のために役立てようと思っています。



奨学金を受けたいきさつ

私はジョグジャカルタ州バントウル県バンゲンタパン町に住んでいます。中学校2年生まで成績が良かったので父親の友人に、日本の C.P.I.Japan の「教育里親制度」による奨学金を紹介して戴きました。申込申請の前に、C.P.I.のインドネシア奨学組織であるPPKIJジョグジャカルタ事務所で地域リーダーのスティクノさんに合わせてもらい、合格となったのです。

学校の成績や今まで参加した学校外部活動などに関する面接を受けました。将来の夢などに関しても聞かれました。学校を通して PPKIJ に申請書を送られ、合格通知発表は学校で行われました。あの時の感激を今でも忘れません。

教育里親制度プログラムで考えたい…後輩への無料塾など学費以外へのご支援のこと

私は、C.P.I.-PPKIJ の奨学金を受けたお陰で学校の活動や勉強に集中でき、とても助かりました。奨学金で学費を払い、両親からのお金を文房具や教材に使うことができました。勉強する気も高まり、PPKIJ の活動、例えば先輩達が指導した塾や日本語塾に熱心に参加できました。私にとって、その全てが初めの経験で大変勉強になったことを覚えています。ところが、先輩たちが忙しい中でも無料塾を続ける励ましだった、テキスト作りや交通費などへの、C.P.I.からの支援がなくなり、学生としては継続が難しくなったのです。里親さんの減少で、

余裕の支援金が出なくなったと聞かされました。

でも今、教師になった教育里子卒業者の中から無料塾を復活させたいとの動きが出ています。この人たちの活動を支援していきたいです。



大学へ進学するとき…進路を決めた気持ちを大事にして、あきらめないことが肝心でした

高等学校はジョグジャカルタ第6国立高等学校に通いました。学校まで 1 時間もかかるほど遠いのです。その高等学校は人気ある学校でした。ところが高校の3年生の時に、父親のビジネスがうまく行かず、家庭経済の状況が極めて厳しくなりました。姉はガジャマダ大学で獣医学科に通っており、実験・研究等の為の実費は、大学の奨学金では足りません。兄も高等専門学校に通い、そちらの費用を賄うのも大変でした。そんな家庭環境では、私の大学進学は、とても無理でした。でも私は「絶対大学に行けるのだ」と信じ、高校2年のときに決めた夢を叶えるため、歩む道を決めていました。人々を救う社会開発学に魅かれたからです。家族は私

の高校での成績をみて、なぜ理工系を選ばないのか、社会学は理工系からの逃げだ、成功の道が判らない、このように言う毎日でした。周囲の人々、学校教師も、同じ意見でした。唯一励ましてくださったのは、スティクノ先生と、C.P.I.会長の小西会長でした。お二人とも社会学出身の方で、具体的な成功例を教えてくださいました。それで私は頑張ることができたのです。自分が強い気持ちで、解決すべき目標を目指せば必ず道は開けるのだ、これはお二人が教えて下さったことです。方法も教えて下さいました。

大学へ行くための、C.P.I. と連携する政府のクロス補助システムについて説明します

高校3年生になって、2年生の時から夢、ガジャマダ大学(UGM)の政治社会学科に入学する希望がより強くなりました。UGM に無料で入学し、学費もかからないようにしたいと考えて、たくさんの情報を収集しました。国立大学である UGM は、地方分権の政策方針により BHMN = 自立運営大学(国立大学だが、国から補助金をもらえない大学)に変わり、学費が高くなったのです。(※大学の企業努力はまだなかった)のですべての大学経費は大学生の負担です。大学の設備費だけでも最低500万ルピア(約5万円)という膨大な寄付が必要でした。科目(SKS)当たりの費用も6万ルピア/科目かかり、24科目もありますから、科目料は

144万ルピアとなります。その他に年間の学費は、当時100万ルピアでした。いまは、50%UPしています。父親は、たとえ CPI-PPKIJ から支援があっても、入学は無理だろうと言い、進路変更を勧めました。しかし、UGMは上級大学であり、得られる価値は、高いのです。私は諦めようとは思いませんでした。村役場から貧困証明書を発行してもらい、「クロス補助システム」という、国の制度を利用しました。「クロス補助システム」とは、貧乏な学生に対し、科目完了するまで科目費用が無料でもらえる制度です。そして更に、C.P.I.の大学生への学費の補助が支給されたので、UGMに行くことができたのです。

卒業生として C.P.I.-PPKIJ の活動をもっと進めたい…偉大な奨学制度を手助けします

私は、大学時代に体験したボランティア経験を活かし、PPKIJの活動の活性化に努めたいと考えています。大学のとて、私と大学の友達は、高校3年生の後輩たちを対象に大学受験の準備の塾を開き、貧乏な学生でも UJMに入学できるとモチベーションを与えました。奨学金のプログラムは、そのようなモチベーションに応じて支給できるように、よく計画されていると思います。そのことを学生は、まず理解するべきです。と言いますのは、2006 年のジョグジャカルタ近郊の大地震のとき、C.P.I.は家が壊れた家庭の復興に資金を集中されました。また、各地の青年委員会に呼びかけてトラックで家庭用品や水の支援をして下さいました。被災地に入った NGOとしては、どこよりも速い救援だったと記憶しています。ところが、里子の中には、実は私もですが、臨時奨学金を戴ければと、制度の根本を外れて、次から次へと期待を持ってしまったのです。間違っていました。C.P.I.の事情や考えをよく理解して、卒業生としての考えをまとめて、後輩に説明する地域リーダーを手助けするようにしなければ、と思います。

2015 年に予定する卒業生集会のこと

いまは、政府や会社あるいは教師として中堅になって働いている卒業生が大勢います。彼らと共に、C.P.I.が



上の写真の一番右、ハンダヤニさん



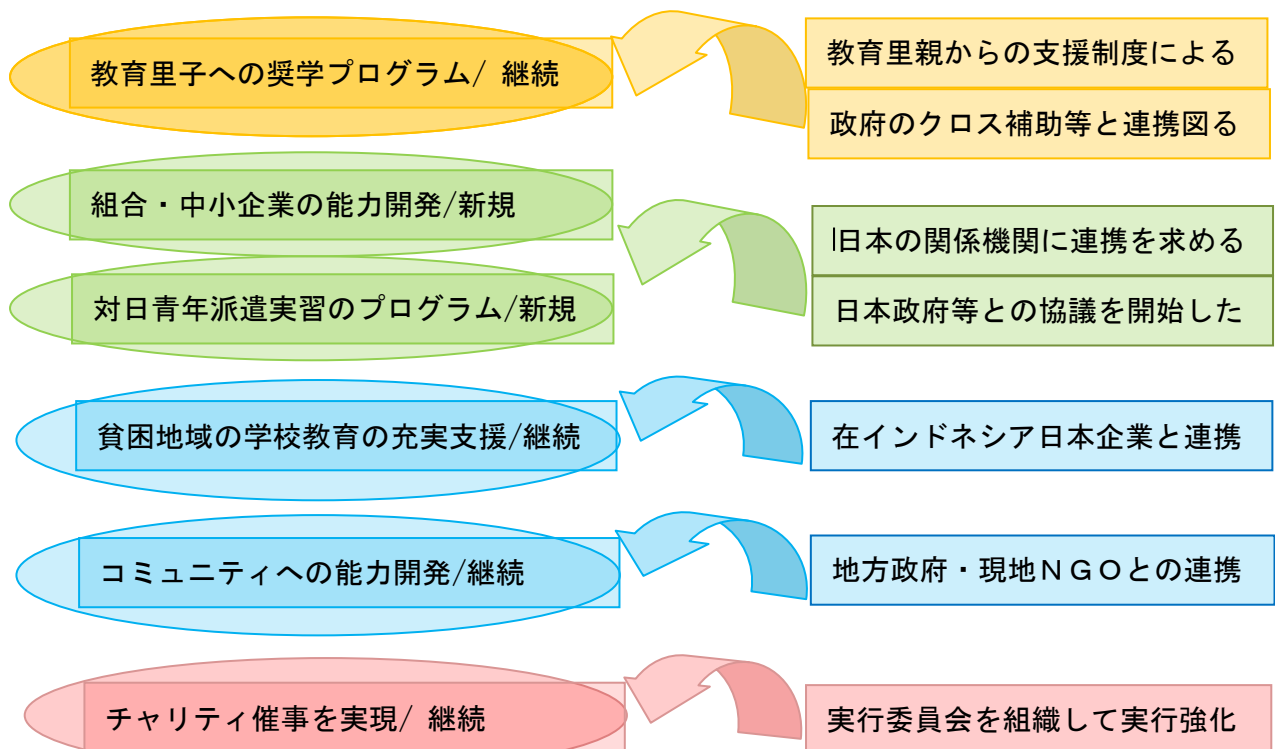
CPIが設立した薬剤師養成高校の先生たち

始めてくださった奨学制度を発展させなければなりません。そのための集会にしたいのです。いま、インドネシアで一番、奨学金を必要としている地域、階層に、教育里親の思いがきちんと届くように、活動が社会的に大きな価値をもつように、支援する側の一翼を担いたいと考えています。ですから、どうか、日本からのご支援を続けてください。教育里親の皆さんを大切に想う気持ちは、いつも途切れることはありません。その気持ちで、今を、頑張っています。どうもありがとうございます。

2014 年からの体制

ー組合&中小企業省との協力を展開するー

2014 年からの、インドネシア外務省との登録更改にあたり、国際 NGO の、新政府においてのカウンターパートを決めることとなり、2014 年 6 月 25 日に外務省が全省庁を集めて 3 日間の協議が行われました。その結果、青年の自立支援を目標とした教育支援・教育開発を旨とする C. P. I. の直接のカウンターパートとして組合&中小企業省が選ばれ、9 月 6 日に東京で協定書への署名式を行いました。



PPKIJの
ローカルリーダー



コミュニティ への
教育開発



教育里子への
奨学事業



日本インドネシア市民友好チャリティ催事



日本での能力開発に
係る調査



9月6日東京で行った協定書署名式の様子です。インドネシアから組合&中小企業省の大臣官房長・アグス氏および大臣補佐官タウフィク氏が来日され、C.P.I.から小西会長と山川事務局長が出席、通訳者を含め6名の立会人を得て行いました。



インドネシア政府との登録改定に続き、カウンターパートに決まった同省との協定は、全省庁の承認を得る必要から、延々3ヶ月掛かりました。

C.P.I.の主軸である、教育里親制度につきましては、青年の自立のための教育支援プログラムと位置づけられました。現地の教育里子卒業生会から、教師となった卒業生による、現役教育里子に対する無料塾への支援を加えることが求められています。来年度の計画として検討をしたいところです。

また、インドネシア政府と協働して、中小企業雇用者に対する実務教育、または専門学校教育を授ける支援が、加わる予定です。支援方法・運営方法につき話し合っています。



ほかに継続している支援プロジェクトは、貧困地域への学校教育を充実させること（東インドネシアの島々でのコミュニティカレッジ型中学校の設置・飲料水設備設置など）、コミュニティへの能力開発を行うこと（「災害未亡人」の生活自立を助ける等）、実務学校の設立または支援（西部ジャワでの薬剤師養成高校の設置、実務学校での研修支援を呼びかける、等）を既に行いましたが、引き続きこれらを推進していきます。また、カウンターパートからの要請に基づき、役割分担をして新規プログラムを2点（中小企業能力開発、対日派遣実習推進）に協力を致します。以上です。

